

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 委員会



スーパーバイザー  
小山 薫堂 氏

1964年6月23日熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



エリア・コンサルティングにて下川氏

# レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援



1月18日、プレゼンテーションにて

「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。日本のモノづくりを支え発展させ、そこから新しい価値を生み出そうとしているレクサスのブランド思想の1つである「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。沖縄県選出の匠、琉球ガラスジュエリーデザイナーの稲嶺佳乃さんの思いと、完成したプロダクトを紹介する。

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:レクサス)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、隈研吾氏(建築家/東京大学教授)、ケエナエル・ニコラ氏(デザイナー)、清川あさみ氏(アーティスト)、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーに発足。第一回となる今回は、全国47都道府県から地域推薦、一般公募合わせて52名の若き匠が選出された。

昨年夏、レクサスギャラリー・高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを重ね、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトづくりに取り組んだ。「本当に欲しくなるプロダクトか?」「地域のオリジナリティーはあるか?」「コンセプト



プロダクトについてプレゼンする稲嶺さん

やターゲットは明確か?」など、サポートメンバーから真剣なアドバイスが行われ、匠は約1年の試行錯誤を経てプロダクトを完成させた。

1月18日に都内で行われたイベントでは全国の百貨店、セレクトショップのバイヤー、メディア、デザイン関係者などに向けてプレゼンテーションを実施。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなるチャンスを手にした。

## 沖縄らしい風景 時間を色で表現

稲嶺佳乃 沖縄県／琉球ガラスジュエリーデザイナー



完成プロダクト「サンセットスターシリーズ」  
【ジョイア・デ・レキオ 宜野湾市大山2-27-13 電話098(943)0738 定休:水木曜日】

## 琉球ガラスの研磨に挑戦

沖縄屈指の観光スポット、本島南部の糸満市にある「琉球ガラス村」。その施設内に工房を構える稲嶺さん。工芸品の枠を超え、琉球ガラスの新たな魅力を伝えるジュエリー制作を手がけている。



上原さんら工芸士が作り出す琉球ガラス＝琉球ガラス村

代々、琉球ガラスの製造業を営む一家に生まれ育った。20代のころ、海外のデザインや装飾品に興味を持ち、ヨーロッパの8カ国を訪ね歩いた経験がある。現在、宜野湾市大山に構えるジュエリーショップ「ジョイア・デ・レキオ」。作品にその時の刺激が強く反映されている。

シヨップ名はポルトガル語で「琉球の宝石」を意味する。「沖縄という小さな地域から、強烈な光りと輝きを放つ、新しい沖縄のジュエリーのカタチ」として誕生させた。ジュエリー制作のきっかけは、客の一言だった。



「アコクロー」



「ハイムルプシ」



ガラス棒をカットし研磨を施す

た。「ベネチアングラスのジュエリーはあるのに、琉球ガラスではできないのか」。不可能とされていた制作はそこから始まり、沖縄の風景を意識した数々の作品が生まれる。

## 全国の匠と交流 「何より刺激」

一個一個違うガラスの表情をじっくり見つめながら、それを生かすデザインを構想し、絵を描く。今回、プロジェクトに沖縄代表として参加し「サンセットスター」と名付けたリング兼ネックレスを世に出した。



ガラスの表情からデザインを描く

老若男女が普段使いで楽しめる作品は「地元の人こそ使って欲しい」と語る。今回のプロジェクトに参加して「キックオフ・セッションから約1年、たくさんのアドバイスを頂く中で、新しい技法に挑戦できたことが大きな進歩」と喜ぶ。特に「全国のガラス工芸作家たちとの触れ合いが何より刺激になった」と振り返った。

「今回の挑戦はゴールではなく大きな一歩。今残っている伝統工芸品は時代の流れに沿って変化してきたものだと思う。ニーズに合ったモノづくりこそ、後世につながる」。本プロジェクト参加の中で見えてきた「チェンジ・チャンス・チャレンジ」を胸に、革新的な作品づくりを目指す。



商談会会場でコンセプトを語る稲嶺さん

これまでにも琉球ガラスのジュエリーを数々生み出してきた稲嶺さん。「ガラスに沖縄の時間を閉じ込めた。琉球だからこそ感じられる情緒ある空間を感じてほしい」と語る。

棒状にした琉球ガラスをカットし、ドーナツ状にくり抜きながら研磨し削りを入れる加工作業は、本来の琉球ガラス製品にはない新しい挑戦。



稲嶺 佳乃  
沖縄県／琉球ガラスジュエリーデザイナー

1974年沖縄県宜野湾市生まれ。1994年聖徳短期大学卒業。1999年株式会社りあん入社(琉球ガラス村グループ)。2010年にJOIA DE LEQUIOブランドを設立し、デザイナー兼プロデューサーを務める。家業である琉球ガラスに幼い頃から触れていた影響で、海外の装飾品やデザインにも興味を持ち、ヨーロッパ8カ国を訪ね歩く。現在のデザインにはその当時の刺激が反映されている。

